# 「南洋材・中国材」

南洋材·中国材担当 数矢製材株式会社 村井 大

南洋材、中国材というなんとも大雑把な表題だが、ホワイトセラヤ、セランガンバツー、メルクシパイン集成材、赤松集成材の4アイテムについて、色々と見解を書いてみようと思う。

私が会社に入った22年前は、南洋材の全盛期を過ぎており、徐々に衰退をはじめるタイミングだった。 もっと昔の南洋材に興味がある人は「炎熱商人」という小説を読んで欲しい。フィリピンが舞台だが、マ レーシア、インドネシアも似たような状況だったと思われる。ちなみに70代の南洋材を扱っている人と 話すと、「あの主人公は俺の事だ」と半数の人は口にする(笑)。

南洋材平割を扱っている新木場の材木屋の多くが以前は製材工場を営んでいた。原木の質の低下、加圧防虫業者の廃業、職人不足などから、多くが工場を閉鎖してしまい、今では新木場には南洋材製材工場は菱大木材㈱さん一軒となっている。東京港に原木が入らずに、陸送で原木を運び土場で玉切りする苦労は、とてつもない労力とコストがかかっていると思われる。また機械の維持、刃物の目立てなど考えれば考えるほど気が遠くなっていく。私は早々に工場を閉鎖してしまったので、こんなことを言える立場ではないが、新木場における南洋材製材工場の最後の砦として、菱大木材㈱さんには最後の一本まで製材を続けて欲しいと切に願っている。

扱い品目の流れとしては、原木をマレーシア、インドネシアなどから輸入して国内で製材。内地挽きといわれる平割を販売。その後現地にて製材した平割を輸入して販売する現地挽きが増えてくる。ラワンは造作に使われる事が多いので、ズブ生の丸太挽きよりは、ある程度乾燥して価格も手頃な現地挽きがシェアーを伸ばしていった。同時にメルクシパインなどを使った集成材が国内に流通しだす。様々な樹種の集成材があったが、結局残ったのは植林で安定供給できるゴムやメルクシパインなどとなった。そしてバツーやウリンなどのデッキ材の扱いが増えてくるといった流れになっている。

樹種の特徴などは木材辞典やインターネットで調べる事ができるので、そちらを参照して頂きたい。

ここでは私の個人的な感想を述べてみたい。

#### ホワイトセラヤ

一般住宅から店舗の造作、学校などの下駄箱の 天板、跳び箱の側板、トラックのボディー、道路 工事の定規など色々な用途で使われている。

A品とB品の違いは虫食いの穴(ピンホール)。たまにこの穴につまようじなどを挿して、埋木してA品にまぜている平割がある。それも1か所ではなく何か所も埋木して。非常に眼が良くて、手間のかかる作業です(笑)。もちろんB品扱いにするが、こういう平割を見るとシッパーはもっと別の努力をすればいいのにといつも思う。



Wセラヤ

### セランガンバツー

デッキ材として、色々な場所で目につく。

高耐久とうたっているが、弊社の入り口に3年間何もしないで放置している90角は、日焼けと日割れが酷い。どんな樹種でもオイルを塗るなど、ちゃんとしたメンテナンスは不可欠だと思う。

また、商売では 4m ものが引き合いが多いが、現場ではそれを短く切って使っている。長い材料は曲がりがあるので、短いほうがいいですよと言ってもなぜか 4m と言われる。



Sバツー (リブ、フラット)

バンドルをばらすと真っ赤なコオロギのような

昆虫が度々混入している。死んでいるので生態系には影響ないと思われるが、毎度びっくりさせられる。 最近は人工木材なども増えているが、やはりここは無垢を使って欲しい。

## メルクシパイン集成材

ホームセンターで大活躍している。我が家では 棚板をDIYなどする時に愛用。

グレードはメーカーで分かれるが、主にA、AP、B、Cと分かれている。ちなみにPはピンク、Bはブルー、Cは芯持材混入(センターハート)。塗ってしまうのであれば安いBグレードで十分。1面しか見えないのであればAPでじゅうぶん使っていける。

たまに表面A、裏面Bなどという変わったグレー



メルクシパイン集成材

ドがある。集成材というのは1つのピースを何重と接着して作るものだが、裏面だけブルーのグレードを作る労力は大変なものと思われる。少しでも高く売ろうというシッパーの考えなのか、少しでも安く 買おうというバイヤーの考えなのか私にはわからない。

# 赤松集成材

こちらもホームセンターなどでよく見かける。 正直言うと私はそんなに中国材には詳しくない。 しかも最近の赤松集成材はロシア産が多くなって いるので、中国材と呼んでいいのか・・・・・

夏場の暑い時期にはちょっとヤニっけがあるのか、さわるとぺたぺたしている感じがする。

一昔前は、南洋材や中国材は違法伐採が多く、環 境破壊というイメージがあったが、現在は植林や



赤松集成材

計画伐採、資源保護など昔とは比べ物にならないぐらい環境に配慮している。限りある資源を今後も大切に使っていきたいと思っている。



唐松岳 ガラガラ沢 ちょっと変わったところを滑っています。 昨シーズンの記憶に残る一枚です。